

# 日本超音波医学検査研究会 第20回総会ならびに第20回研究発表会 プログラム

会 期 平成7年4月22日(土) 12:00~17:00  
平成7年4月23日(日) 9:00~16:00  
会 場 セブンシティー (東京年金基金センター)  
大ホールB1F  
〒160 東京都新宿区西新宿4-34-1  
電話 03-3376-5101

研究発表会長 関根 智紀  
国保旭中央病院 超音波検査室  
〒289-25 千葉県旭市イの1326  
電話 0479-63-8111 (内2163)

## ご 挨拶



第20回研究発表会  
会長 関根 智紀

日本超音波医学検査研究会の第20回研究発表会を担当することになり、身に余る光栄であると共に非常に大きな責任を感じております。

本会は今年で20年を迎え、研究発表会も記念となる第20回目として開催されます。この20年間での超音波医学の進歩には目覚ましいものがあり、技師による超音波検査も単なるスクリーニング検査にとどまらず、診断・治療面で生かされるような重要な検査情報を提供できるようになりました。また、超音波検査の発展に伴い業務も多種多様化し、今後は益々検査の重要性が増してくるものと考えます。今回の研究発表会の内容は、このような超音波検査の発展を振り返り、さらに今後に向けて新たなる検査技術の展開を目指せるように心がけました。

メインテーマは、「今、新たなる超音波検査の展開を目指して」と掲げました。

特別講演は木村邦夫先生（千葉社会保険病院健康管理センター）による「門脈圧亢進症診断の進歩における腹部超音波の役割」であり、従来観血的検査法でしか診断できなかった門脈圧亢進症の診断に腹部超音波診断法の進歩がどのように寄与してきたかを講演していただくことになっています。シンポジウムはメインテーマに合わせるように「腹部領域における超音波検査の技術展開」としました。超音波検査は技師の差が結果へ反映されがちですが、我々は探触子を握ったら技師のレベルや患者さんの状態にかかわらず超音波検査の持つ最大限の情報を提供し、また超音波検査室を効率良く運営しなければなりません。今回、技師のレベルは別問題として、臨床へ多大な情報提供が求められる超音波検査を技師の立場から5テーマに分けて、それぞれの分野から目下活躍中の方々によって検査の技術展開を発表していただき、初心者からベテランまで幅広く参加してディスカッションしてみたいと思います。また、キーレクチャーでは「カラーアンギオの原理と特徴」をテーマにし、一般演題の発表時間は7分間とやや長くして貴重な研究成果を発表していただけるように設定しました。

このように研究発表会の内容は、超音波検査にたずさわる方々にとって多いに役立つものと考えます。

なお、発表会場のセブシティの周辺は東京副都心として整備が進み東京都庁も目の前にみられます。多数の会員のご来場によって有意義な研究発表会と成りますことを発表会の責任者として心から願います。

# 第20回研究発表会日程

4月22日 午後

時 間	演 題 名	演 者	座 長
12:00	開 会 の 辞		
12:10~12:40	<b>一般演題Ⅰ</b> 20-1 健常人における甲状腺の体積と体格との相関について 20-2 乳腺超音波施行における同時甲状腺疾患超音波検査の有用性について(第二報) 20-3 甲状腺診断におけるアニュラレイプローブの使用経験	戸田 玲子 小村井美穂 鳥海 修	佐久間 浩
12:40~13:10	<b>一般演題Ⅱ</b> 20-4 単発性結節性甲状腺腫における縦横比(D/W比)の臨床的意義(第二報) 20-5 甲状腺濾胞癌の超音波画像 20-6 乳腺超音波におけるアニュラレイプローブの使用経験 一乳癌症例を中心に	遠藤由紀子 中島 有里 黒瀬 実香	寺島 茂
13:10~13:40	<b>一般演題Ⅲ</b> 20-7 超音波, マンモグラフィ, 視触診を併用した乳癌検査の成績 20-8 乳腺の腺脂肪線維腫の超音波画像 20-9 超音波乳癌検診(第3報) 一早期乳癌の検討一	林 哲也 小泉 恵 阿部 文子	高梨 昇
13:40~14:20	<b>一般演題Ⅳ</b> 20-10 胸部外傷による三尖弁逆流の1例 20-11 当院で経験した心膜欠損症2例と類似症例1例の心エコー所見について 20-12 断層心エコー図法による左室肥大の検討 20-13 成人非リウマチ性大動脈弁狭窄の重症度評価における注意点	谷内 亮水 和田 豊美 高木 秀祐 渡 春樹	戸出 浩之
14:20~15:00	<b>一般演題Ⅴ</b> 20-14 超音波輝度解析法による心筋グルコース代謝の評価; ポジトロンCT (PET) との比較 20-15 循環器疾患の心エコー図診断における肝静脈血流評価の意義 20-16 左心室計測についての検討 20-17 超音波コントラスト剤の有用性について	徳島 修 種村 正 野田久美子 永江 学	真崎 玲子
15:00~17:00	<b>シンポジウム 【腹部領域における超音波検査の技術展開】</b> 20-S1 依頼目的に応じた超音波検査の進め方 20-S2 精密検査としての超音波検査と技師の役割 20-S3 超音波検査における精度管理について 20-S4 超音波検査報告書の作成と注意点 20-S5 腹部超音波検査室の運営と問題点	西田 睦 山崎 良兼 来住野 修 水町 滋 須貝 正男	南里 和秀 前田 純子

4月23日午前

時 間	演 題 名	演 者	座 長
9:00~9:40	一般演題Ⅵ 20-18 原発性肺癌症例における腹部超音波検査（腹部臓器への転移の検討） 20-19 胆管内回虫迷入症における超音波像の検討 20-20 超音波検査にて術前診断し得た成人腸重積症の1例 20-21 精巣腫瘍例に見られた点状high echo 所見の検討	上條 敏夫 東 靖代 界外 忠之 濱口 幸司	松川 正男
9:40~10:20	一般演題Ⅶ 20-22 超音波パルスドプラ法による Nutcracker 診断の試み 20-23 超音波パルスドプラ法を用いた肝疾患における上腸間膜動脈，腹腔動脈，脾動脈の各血流量の検討 20-24 慢性肝疾患における肝静脈血流波形の変化（超音波パルスドプラー法による検討） 20-25 慢性腎疾患患者における腎実質血流の検討	土居 忠文 石川 満子 椿 哲弥 米山 昌司	鶴岡 尚志
10:20~10:50	一般演題Ⅷ 20-26 当院における多胎妊娠の超音波検査 20-27 超音波パルスドプラ法による上肢動脈の血流パラメータとパターン解析 20-28 超音波ドプラ法による下肢動脈血流の検討	岩崎 昭宏 三谷 哲也 峯村 貴志	永江 学
10:50~11:00	次回研究発表会長挨拶 山崎 幸司		
11:00~12:00	特別講演 【門脈圧亢進症診断の進歩における腹部超音波の役割】	木村 邦夫	遠田 栄一 関根 智紀
12:00~13:00	休 憩 (評議委員会)		

## 4月23日午後

時 間	演 題 名	演 者	座 長
13:00~13:30	総 会		
13:30~14:00	キーレクチャー 「カラーアンギオの原理と特徴」	佐藤 武史	山崎 幸司
14:00~14:20	一般演題IX 20-29 当院における超音波ファイリングシステムの現状と問題点 20-30 生理機能検査データトータルマネジメントシステム	波多野陽子 仲宗根 出	中込 誠
14:20~15:00	一般演題X 20-31 非触知性病変に対する乳腺ポジショニングシートの有用性 —超音波による存在部位表示方法に関して— 20-32 人間ドックにおける頸動脈超音波検査の有用性について 20-33 超音波断層法による頸動脈硬化性病変の評価 —内中膜径に関する再現性の検討— 20-34 皮膚科領域におけるアニュラアレイプローブの使用経験	佐藤 和秀 川地 俊明 寺島 茂 山田 清勝	白石 周一
15:00~15:30	一般演題XI 20-35 慢性肝疾患経過観察中に発見された胆道系悪性腫瘍3例 20-36 肝細胞癌との鑑別が困難であった肝細胞腺腫の一例 20-37 肝血管腫の長期経過観察	石崎 一穂 嶋田 浩幸 増田 裕美	長谷川雄一
15:30~16:00	一般演題XII 20-38 超音波検査による動注化学療法の経過観察 20-39 体表走査による超音波検査が有用であった隆起性胃癌の2例 19-40 胃癌術前の超音波検査 —100症例の検討と検査のためのワークシート作成の試み—	佐久間聡美 橋本 優子 山川 忠弘	岩下 浄明
16:00	閉 会 の 辞		